

Ⅱ 02 算 数

問題構成

本校の算数では、様々な分野に渡った早く正確な処理能力、柔軟性のある深い思考力をみる出題を心掛けています。それらの力を確認するために、第1回、第2回ともに次のような大問を6題出題します。①は計算問題と1行問題、②～⑥は応用問題です。

配点は計100点満点のうち、①は20点、②～⑥はそれぞれ14～18点程度です。②～⑥は問題の内容により配点を変えます。

①では、計算問題を1題と1行問題を4題出題します。早く正確な計算力と基本的な文章題の処理能力が必要な問題を並べています。これらは受験生の基礎的な学力を確認するための問題です。1行問題は代表的な分野を中心に出题します。各分野の基本問題をまんべんなく理解し、練習して確実に得点できるようにしましょう。

②～⑥は応用問題です。自分で考え、自分で解決する力を持っているかどうかを確認する目的で出題しています。(1)や(2)などの前半の設問は、(3)などの後半の設問を解くための誘導やヒントになっています。前半の一つ一つの設問の意図をしっかりと理解し、後半の設問に利用することができるかどうか大きな鍵となっています。

2025年度入試の各回の②以降の問題の出題分野を以下にあげておきます。

第1回 ② 規則性と計算

③ 余りと公約数

④ 損益算

⑤ 平面図形

⑥ 旅人算

第2回 ② 規則性

③ 時計算

④ 流水算

⑤ 平面図形（図形の性質）

⑥ 約数の倍数

以上のように、各設問は分野を限定することなく、幅広い分野から出題します。特定の分野に絞って集中的に取り組むのではなく、まずはどの分野もまんべんなく基本的な知識をしっかりと理解しておくことが大切です。

2～6の出題意図

この大問では、本質をきちんと理解しているかを問うために、一行問題より難易度が高い問題に、設問を付けて出題しています。内容は定番の問題や、題材が難しいまたは真新しいテーマなど様々です。定番の問題についても後半の設問は設定が複雑な内容であったり、さらに一歩進んだ内容に踏み込んでいるなど、その場で柔軟に考える力や論理的思考力をみる問題を出題しています。これは、普段から暗記ではなく理解を伴った学習ができている人を求めているからです。

前半の設問は問題内容を読み取ることができたかどうかを確認する基本的な問題です。またこれらは、その次の設問を考えるためのヒントや誘導です。後半の設問がなかなか解けない人は、前半の設問の誘導をもう一度読み解いてみましょう。そうすれば正解に近づくことができるはずです。

いずれの問題も解法を覚えているだけでは解くのが難しい問題を出題しています。普段から、解法を覚える学習をするのではなく、その解法の根拠を理解する学習を行うことが最大の対策になります。また、後半の設問を解く時間を確保するためにも、基本的な設問は速く正確に解くことも重要な力であるといえます。